

2021年3月5日
東京製鐵株式会社

田原工場・九州工場・宇都宮工場で太陽光発電設備が稼働

当社は、長期環境ビジョン「Tokyo Steel EcoVision 2050」のもと、事業活動による温室効果ガスの排出量を削減する取り組みの一環で、順次、再生可能エネルギーの導入を進めています。今回、その一連の流れとして、田原工場・九州工場・宇都宮工場において、2021年2月末より、屋根置き型の太陽光発電設備の稼働を開始しました。3工場合計で、年間発電能力約930万kWh（太陽光パネル発電容量約9,200kW）により、約4,200tのCO₂排出量の削減を見込んでおります。各太陽光発電設備から得られた電力は、全量を自社設備にて使用し、レジリエンスの強化と再生可能エネルギーの活用促進をはかります。

拠点名	太陽光パネル発電容量	稼働開始日	CO ₂ 排出削減量
田原工場	約6,400kW	2021年2月20日	約3,000t-CO ₂ /年
九州工場	約800kW	2021年2月22日	約250t-CO ₂ /年
宇都宮工場	約2,000kW	2021年2月25日	約950t-CO ₂ /年
計	約9,200kW	—	約4,200 t-CO ₂ /年

※CO₂排出削減量の算出については、環境省「平成30年度 電気事業者別排出係数」の基礎排出係数を用いました。

今回の田原工場・九州工場・宇都宮工場における太陽光発電設備への投資は、当社の再生可能エネルギーの普及拡大や導入促進方針が評価され、環境省の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る案件として採択されております。また、現在、岡山工場においても、太陽光発電設備の設置に向けた計画を進行しております。

当社は今後も「Tokyo Steel EcoVision 2050」を推進し、脱炭素・循環型社会の実現に貢献してまいります。